

戦後の学習指導要領にみる球技教材の変遷

石井浩一¹⁾

Transition of Ball Games in the Course of Study after the World War II

Hirokazu Ishii¹

Key words: transition, ball games, the course of study

**(Bulletin of Department of Physical Education, Faculty of Education,
Ehime University, 10, 7-15, October, 2018)**

キーワード：変遷、球技、学習指導要領

はじめに

筆者は大学の保健体育の教員として、体育実技では主に球技を担当してきた。しかし、自身である程度実技ができて、ルール、戦術などは知ってはいても、学校体育の教材としての球技がどのように変わってきたのかについては全くわからない。興味はあったが、調べることを怠ってきた。そこで本論文では、主に文部科学省の学習指導要領データベースを利用して、戦後の球技の教材がどのように変わってきたのかを明らかにするとともに、若干の考察を加えるものである。

ではなぜ戦後に着目するのかというと、今日の学校体育は、戦後アメリカの介入による改革を経て作られた方向性から大筋変わっていないと考えられるからである。つまり体操中心の戦前から遊戯、スポーツ中心になった戦後にまずは着目することにする。ただし、考察の対象は球技の内容にとどまるものであり、高等学校については普通科のみを対象とし、専門学科を置く学校は対象としないことを断っておく。

なお、本文中の球技教材担当表は、学習指導要領データベースを元に筆者が作成したものである。

1. 学校体育指導要綱 昭和22(1947)年8月

昭和20年は第二次世界大戦で日本が敗戦した年であ

り、占領行政が始まった年である。昭和21年にはアメリカの教育使節団が日本を訪れ、その後数年間の教育改革を方向付けた。教科の名称は戦前の「体錬」から「体育」に変わった。また、旧要目が統制的性格を持っていたため、戦後すぐの要目は教授上の参考とされた。昭和22年5月の学校教育法施行規則で、教科内容とその取扱いは学習指導要領の基準に拠ることになったので、体育科でも当然これが必要なことであったのだが、発表されたのは、「要領」ではなく、「要綱」であった。しかも、学校種ごとの体育編も保健体育編もなかった。では、まず要綱に示された球技教材をみていこう。

1-1 小学校低学年(約7年-9年)

小学校低学年では球技は、遊戯という種別で行うようになっていて、学年別の配当は表1のようにになっている。

表1 小学校低学年の球技の内容 1947

1・2年	球送り、球入れ
3年	フットベースボール、ドッジボール、対列フットボール

1, 2年の球送り、球入れはボールを使った簡単な運動。3年はフットベースボール、ドッジボール、対列フットボール。フットベースボールとは、筆者も小学校の休み時間に

1) 愛媛大学教育学部
〒790-8577 愛媛県松山市文京町3番

1. Faculty of Education, Ehime University,
Bunkyo-cho 3, Matsuyama-shi, Ehime,
〒790-8577, Japan

よくやった、ピッチャーがゴロでサッカーボールを投げて、キッカーがボールを蹴って進塁するというゲームであろう。対列フットボールというのは、おそらくフットボール(サッカー)の導入教材で、列をなした二組が対峙し、ボールを蹴る、止めるなどの運動を行うものと推測される。

1-2 小学校高学年(約10年-12年)

小学校高学年の内容は表2のとおりで、小学校4年と3年は同じ内容となっている。5, 6年の教材のうち、ワンアウトボールがよくわからない。おそらくは野球がスリーアウトなので、ワンアウトで攻守の切り替えを早くする、今日でいうところのベースボール型の教材と推測される。フットボールとは、後年の学習指導要領をみると、サッカーのことをさしていると思われる。

表2 小学校高学年の球技の内容 1947

4年	フットボール、ドッジボール、対列フットボール
5・6年	ボートボール、ソフトボール、ワンアウトボール、フットボール

1-3 中学校(約13-15年)

中学校の球技は、野球型、ろう球型、しゅう球型、庭球型の4つの型に分類され、また男女によって教材の配当に違いがみられる。ただし、学年ごとの配当はない。

表3 中学校の球技の内容 1947

	女子	男子
野球型	ワンアウトボール フットベースボール ソフトボール	ワンアウトボール ソフトボール 軟式ベースボール
ろう球型	バスケットボール ハンドボール	バスケットボール ハンドボール
しゅう球型	スピードボール	サッカー スピードボール タッチフットボール ラグビー
庭球型	バレーボール テニス	バレーボール テニス

奇妙なのはこの分類である。ただし、学習する生徒にとってはなに型であろうと関係はないが、ろう球型にバスケットボールとハンドボールが入っていて、庭球型にバレーボールとテニスが入っているのは、奇妙に映る。ろう球とは「籠球」で、「バスケットボール」を日本語にしたものである。つまり、バスケットボールはろう球そのものであるから、型であるはずがない。しかもそこにハンドボールを入れているというのは、誠に奇妙である。庭球型も同様である。テニスは庭球そのものであるから、そこにバレーボールが入

っているのも、やはり奇妙なのである。後年の要領をみると、こういう分類はないので、混迷していた時代の産物といえようか。

表4 中学校の球技の内容 1947

	女子	男子
野球型	ワンアウトボール フットベースボール ソフトボール	ワンアウトボール ソフトボール 軟式ベースボール
ろう球型	バスケットボール ハンドボール	バスケットボール ハンドボール
しゅう球型	スピードボール	サッカー スピードボール タッチフットボール ラグビー
庭球型	バレーボール テニス	バレーボール テニス

1-4 高等学校(仮称)(約16年-18年)

高等学校(仮称)となっているのが、どういう意味なのかわからない。球技の内容は上記中学校と同様のことがいえる。

表5 高等学校の男女別球技の内容 1947

	女子	男子
野球型	フットベースボール ソフトボール	ソフトボール 軟式ベースボール
ろう球型	バスケットボール ハンドボール	バスケットボール ハンドボール
しゅう球型	スピードボール	サッカー スピードボール、 タッチフットボール ラグビー
庭球型	バレーボール テニス	バレーボール テニス

1-5 大学(仮称)(約19年-22年)

表6 大学の男女別球技の内容 1947

	女子	男子
野球型	フットベースボール ソフトボール	ソフトボール 軟式ベースボール
ろう球型	バスケットボール ハンドボール	バスケットボール ハンドボール
しゅう球型	スピードボール	サッカー スピードボール タッチフットボール ラグビー
庭球型	バレーボール テニス	バレーボール テニス

大学(仮称)もどういう意味なのかわからない。大学がこの要綱に入っているのも驚きである。昭和 24 年以降の学習指導要領には大学が入っていないということは、やはり戦後の混乱の時代の産物ということなのだろう。

表 6 の球技の内容は、中学校・高等学校と同様のことがいえる。また、中・高・大を通じてスピードボールという教材が挙げられているが、どういう球技なのか不明である。

2. 学習指導要領 小学校 体育科編(試案) 昭和 24(1949)年 9 月

昭和24年はまだアメリカの占領下であり、この要領は、前掲の要綱月の発表されて後、まもなく作成に取りかかったため、要綱とほとんど変わりがなく、学校の参考資料であることも変わりがなかった。

2-1 第1, 2学年

表 7 小学校第1, 2学年の球技の内容 1949

ボール遊び	紅白球入れ、追いかけて球入れ、球ころがし、球けり、球あて、手渡し球送り、投げ渡し球送り、ボール投げ、球受け、自由ドッジボール、ころがしドッジボール、ティーチャーボール
-------	-------------------------------------------------------------------------------------

2-2 第3, 4学年

表 8 小学校第3, 4学年の球技の内容 1949

ボール遊び	球ころがし競争、送球競争、順送球、円形ドッジボール、方形ドッジボール、キャッチボール、フットベースボール、ハンドベースボール、ロングベースボール、対列フットボール、コーナーボール、フィールドボール
-------	----------------------------------------------------------------------------------------------------

2-3 第5, 6学年

表 9 小学校第5, 6学年の球技の内容 1949

ボール運動	ワンアウトボール、ベースボール、ソフトボール、ドッジボール、ドリブル競争、フットボール、ボートボール、キャプテンボール、エンドボール、ゴールハイ、バスケットボール、ネットボール、バレーボール、フリーテニス、陣とりボール
-------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------

小学校の球技教材を見て思うのは、昭和 22 年の要綱に比べて種目数が多いことである。しかも、ティーチャーボール、フィールドボール、ゴールハイ、フリーテニスなど、名称だけでは内容が不明なものも多い。

3. 中学校・高等学校 学習指導要領保健体育科 体育編(試案) 昭和 26(1951)年 7 月

3-1 中学校

中学校からは男女別に配当されており、小学校の球技よりは今日我々が知っている球技が多い。

表 10 中学校の球技の内容(7・8・9年) 1951

女 子			
中心教材	望ましい指導週数	選択教材	望ましい指導週数
バレーボール	6-9	ピンポン	3-6
女子バスケットボール	〃	テニス	〃
ボール		ホッケー	〃
追羽根またはバドミントン	〃		
ハンドボール	〃		
またはスピードボール			
ソフトボール	〃		
男 子			
バスケットボール	6-9	テニス	3-6
サッカー	〃	ピンポン	〃
スピードボール	〃	バドミントン	〃
またはハンドボール		ホッケー	〃
トライボール	〃	水球	〃
ソフトボール	〃		
または軟式野球			
タッチフットボール	〃		

3-2 高等学校

高等学校も中学校と同様、男女別に表 11 のように配当されており、内容も同じである。

表 11 高等学校の球技の内容(10・11・12年) 1951

女 子			
中心教材	望ましい指導週数	選択教材	望ましい指導週数
バレーボール	6-9	ピンポン	3-6
女子バスケットボール	〃	テニス	〃
ボール		ホッケー	〃
追羽根またはバドミントン	〃		
ハンドボール	〃		
またはスピードボール			
ソフトボール	〃		

男 子			
中心教材	望ましい指導週数	選択教材	望ましい指導週数
バスケットボール	6-9	テニス	3-6
サッカー	〃	ピンポン	〃
スピードボールまたはハンドボール	〃	バドミントン	〃
トライボール	〃	ホッケー	〃
ソフトボールまたは軟式野球	〃	水球	〃
タッチフットボール	〃		

4. 小学校 学習指導要領 体育科編(試案) 昭和28(1953)年 改訂版

昭和28年の要領では、昭和24年の要領と比べると、球技の内容が減り、高学年ではバスケットボール型、バレーボール型、ベースボール型というカテゴリーで分類されていることがわかる。

表12 小学校の球技の内容 1953

低学年(第1・2学年)	中学年(第3・4学年)	高学年(第5・6学年)
ボール運動をする		
ドッジボール キックボール 球入れ	ドッジボール ハンドベースボール フットベースボール コーナーボール	バスケットボール型(ドッジボール、ポートボール、キャプテンボール) バレーボール型(ネットボール、ピンポン) ベースボール型(フットベースボール、ソフトボール)

5. 高等学校学習指導要領 保健体育科編 昭和31(1956)年 改訂版

昭和31年は高等学校の保健体育だけが改訂された。球技教材は団体的種目とレクリエーション的種目に分類され、サッカーは男子のみで、これは昭和26年と同じだが、あらたにラグビーが男子のみに担当されている。さらに担当に関しては、中心教材と選択教材それぞれの指導週数は明示されていない。

表13 高等学校の球技の内容 1956

団体的種目	バレーボール バスケットボール ハンドボール サッカー(男) ラグビー(男)
レクリエーション的種目	テニス 卓球 バドミントン ソフトボールまたは軟式野球 ダンス

6. 小学校学習指導要領 昭和33(1958)年 改訂

昭和33年の改訂版では、低学年、中学年、高学年ごとの配当が細分化され、一学年ごとの配当になっている。どうしてこのように細分化したのか、その意図は不明だが、少しずつ違う教材を入れていることがわかる。

表14 小学校の球技の内容 1958

第1学年	ボール運動	ア 手渡し順送球 イ ころがしドッジボール ウ たま入れ エ 対列ボールけり
第2学年	ボール運動	ア 投げ渡し順送球 イ 円形ドッジボール ウ ボール投げ エ 対列ボールけり
第3学年	ボール運動	ア 方形ドッジボール イ ハンドベースボール ウ フットベースボール エ ラインサッカー
第4学年	ボール運動	ア ポートボール イ ハンドベースボール ウ フットベースボール エ ラインサッカー
第5学年	ボール運動	ア ポートボール イ ハンドベースボール ウ 簡易サッカー
第6学年	ボール運動	ア ポートボール イ ソフトボール ウ 簡易サッカー

7. 中学校学習指導要領 昭和33(1958)年 改訂版(10月1日施行)

昭和33年の改訂版では、女子の追羽根またはバドミントン、ハンドボールまたはスピードボール、男子のスピードボールまたはハンドボール、トライボール、軟式野球、タッチフットボールがなくなり、非常に簡素化したのが特徴で

ある。

表 15 中学校の球技の内容 1958

第1学年	バレーボール、バスケットボール、サッカー(男子のみ)、ソフトボール、
第2学年	バレーボール、バスケットボール、サッカー(男子のみ)
第3学年	バレーボール、バスケットボール、サッカー(男子のみ)

8. 高等学校学習指導要領 昭和 35(1960)年 10 月

昭和 35 年の要領はちょっと変わっている。全日制と定時制に分けて書かれている。このような書き方は後にも先にもこの年だけである。団体的種目、レクリエーション的種目というカテゴリーはなくなり、ふだんから目にしたり、耳にしたりする球技が教材として定着してきた感がある。

表 16 高等学校の球技の内容 1960

全 日 制	
女 子	
バスケットボール、ハンドボール、バレーボール、テニス(または卓球、バドミントン、ソフトボール) 以上の各群からそれぞれ1種目以上	
男 子	
バスケットボール、ハンドボール、バレーボール、テニス(または卓球、バドミントン、ソフトボール)、サッカー、ラグビー 以上の各群からそれぞれ1種目以上	
定 時 制	
女 子	
バスケットボール、ハンドボール、バレーボール、テニス、卓球、バドミントン、ソフトボール 以上の運動種目から2種目以上	
男 子	
バスケットボール、ハンドボール、バレーボール、テニス、卓球、バドミントン、サッカー、ラグビー、ソフトボール 以上の運動種目からそれぞれ3種目以上	

9. 小学校学習指導要領 昭和 43(1968)年 7 月(昭和 46 年 4 月施行)

小学校は依然として一学年ごとの配当で、今日の低・中・高学年ごとに配当することは行われていない。しかしよくみると、第 1 学年と第 2 学年の教材は同じだし、第 5 学年と第 6 学年も同じ内容である。違うのは第 3 学年と第 4 学年であるが、ラインサッカーは重複している。学年独

自なのは、第 3 学年のドッジボール、エンドボール、第 4 学年のポートボール、ハンドベースボールである。

表 17 小学校の球技の内容 1968

第1学年	ボール運 動	ア ドッジボール イ ボールけり遊び
第2学年	ボール運 動	ア ドッジボール イ ボールけり遊び
第3学年	ボール運 動	ア ドッジボール イ エンドボール ウ ラインサッカー
第4学年	ボール運 動	ア ポートボール イ ラインサッカー ウ ハンドベースボール
第5学年	ボール運 動	ア ポートボール イ サッカー ウ ソフトボール
第6学年	ボール運 動	ア ポートボール イ サッカー ウ ソフトボール

10. 中学校学習指導要領 昭和44(1969)年(昭 和47年4月施行)

中学校の球技の内容は、バスケットボール、ハンドボール、バレーボール、サッカーの 4 種目で、別項3「内容の取扱い」で以下のように示されている。

- ア バスケットボールとハンドボールについては、いずれか一つを選んで指導すること。
- イ サッカーについては、運動場が狭く、じゅうぶんな指導ができない場合は、他の球技種目に代えることができること。
- ウ 第3学年においては、示された球技種目に代えて、ソフトボール、テニス、卓球、バドミントンを指導することができること。
- エ 個人技能、集団的技能およびゲームの内容は、密接な関連をもって取り扱うこと。
- オ 初歩的段階では、個人的技能や集団的技能を身につけ、進んだ段階では、個人的技能や集団的技能を高めて攻防の基礎を養い、さらに進んだ段階では、相手の攻防に応じた集団的技能を高めることに重点をおいて取り扱うこと。
- カ ゲームについては、生徒の技能の程度に応じて、規則や審判のしかたについても取り扱うこと。

昭和 44 年の中学校の要領から書き方が変わったのは、「内容の取扱い」という項目が加わり、学校の実態に応じて教材の選択肢が示されたことであろう。

11. 高等学校学習指導要領 昭和 45(1970)年 10月(昭和 48年 4月施行)

昭和 45 年の要領では、簡素化されて以下の球技の内容となった。それにしても選択肢がなくなり、簡素化されすぎた感がある。

F 球技

バスケットボール、ハンドボール、バレーボール、サッカー(男)、ラグビー(男)

12. 小学校学習指導要領 昭和 52(1977)年 7月(昭和 55年 4月施行)

昭和 52 年に至っても小学校は表 18 にあるように、一学年ごとの配当である。ただし、第 1～4 学年までが「ゲーム」、第 5、6 学年は「ボール運動」というカテゴリーに変わった。小学校の球技は、長らく「ボール運動」という枠組みで行われてきたが、第 1～4 学年が「ゲーム」、第 5～6 学年が「ボール運動」という枠組みに変わり、バスケットボール、サッカーという今日メジャーな球技が教材として配当されている。

表 18 小学校の球技の内容 1977

第1学年	ゲーム	ボール遊び 鬼遊び リレー遊び
第2学年	ゲーム	ボール遊び
第3学年	ゲーム	ドッジボール ラインサッカー
第4学年	ゲーム	ポートボール ラインサッカー
第5学年	ボール運動	バスケットボール サッカー
第6学年	ボール運動	バスケットボール サッカー

なお、内容の取扱いについては、男女の特性を考慮して指導すること、バスケットボールに代えてポートボールを指導することができることが書かれている。

13. 中学校学習指導要領 昭和 52(1977)年(昭和 56年 4月施行)

昭和 52 の中学校学習指導要領では、球技は「集団的スポーツ」という枠組みで以下のものが記されている(個人的スポーツは陸上競技、器械運動、水泳である)。
バスケットボール、バレーボール、サッカー

なお、バスケットボールに代えてハンドボールを指導することができるものとする。

内容の取扱いについては、男女の特性を考慮して指導すること、学校の実態及び生徒の興味や関心に応じて、テニス、卓球、バドミントン又はソフトボールのうち一を加えて指導することができる。

14. 高等学校学習指導要領 昭和 53(1978)年改訂版(昭和 57年 4月施行)

昭和 53 年の高等学校学習指導要領の改訂版では、球技は中学校と同じく、集団的スポーツという枠組みで次のものが示されている。

C 集団的スポーツ

バスケットボール、ハンドボール、バレーボール、サッカー、ラグビー

内容の取扱いを見ると、Cについては第 1 学年においては、二を選んで指導するものとし、また、第 2 学年以上の学年においては、一又は二を選んでそれぞれ指導すること、と書かれている。

15. 小学校学習指導要領 平成元(1989)年 3月(平成 4年 4月施行)

平成元年の要領で、小学校はようやく今日見慣れた低・中・高学年ごとの配当になった。

表 19 小学校の球技の内容 1989

第1学年及び第2学年	ゲーム	ボール遊び 鬼遊び
第3学年及び第4学年	ゲーム	ポートボール ラインサッカー ハンドボール
第5学年及び第6学年	ボール運動	ドッジボール ラインサッカー

なお、内容の取扱いについては、地域や学校の実態に応じてソフトボールを加えて指導することができる、と記されている。

16. 中学校学習指導要領 平成元(1989)年(平成 5年 4月施行)

平成元年の中学校の要領では「集団的スポーツ」というカテゴリーはなくなり、内容の取扱いについて、第 1 学年においては、すべての生徒に履修させること、第 2 学年及

び第3学年においてはこれらのうちから二を選択して履修できるようにすること、となっている。

E 球技

バスケットボール又はハンドボール、サッカー、バレーボール、テニス、卓球又はバドミントン、ソフトボール

17. 高等学校学習指導要領 平成元(1989)年 3月(平成6年4月施行)

平成元(1989)年3月(平成6年4月施行)の高等学校学習指導要領で、球技は以下のように示されている。中学校と同様、「集団的スポーツ」というカテゴリーはなくなっている。

E 球技

バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー、バレーボール、テニス、卓球、バドミントン、ソフトボール

内容の取扱いは、次のように示されている。

(1) イ B、C、D、E、F及びGについては、これらのうちから3又は4を選択して履修できるようにすること。その際、F又はGのいずれかを含むようにすること(Fは武道、Gはダンス)。

(2) 内容のAからGまでに示す事項については、各学年において次のとおり取り扱うものとする。

オ Eの(1)の運動については、これらのうちから2を選択して履修できるようにすること。

18. 小学校学習指導要領 平成10(1998)年 12月(平成14年4月施行)

平成14年4月に施行された小学校学習指導要領で、球技は表20のとおりである。第1学年及び第2学年の内容の取扱いは、ボールゲームについては、2学年にわたって指導すること。

第3学年及び第4学年の内容については、地域や学校の実態に応じてバレーボール型ゲームなどその他の運動を加えて指導することができる。

第5学年及び第6学年については、地域や学校の実態によってはウは取り扱わないことができることとし、ハンドボールなどその他のボール運動を加えて指導することができる。

表20 小学校の球技の内容 1998

第1学年及び第2学年	ゲーム	ボールゲーム 鬼遊び
第3学年及び第4学年	ゲーム	バスケットボール型ゲーム サッカー型ゲーム ベースボール型ゲーム
第5学年及び第6学年	ボール運動	ア バスケットボール イ サッカー ウ ソフトボール又はソフトバレーボール

19. 中学校学習指導要領 平成10(1989)年 12月(平成14年4月施行)

平成14年4月から施行された中学校学習指導要領で球技の内容は、次のように記されている。

E 球技

バスケットボール又はハンドボール、サッカー、バレーボール、テニス、卓球又はバドミントン、ソフトボール

内容の取扱いについては、これらのうちから二を選択して履修できるようにすること。なお、地域や学校の実態に応じて、その他の運動についても履修させることができること、と示されている。

20. 小学校学習指導要領 平成10(1998)年 12月(平成15年12月一部改正)

小学校の学習指導要領は平成15年12月に一部改正されたが、教材の内容及び取扱いには影響ないと判断される。

21. 中学校学習指導要領 平成10(1989)年 12月(平成15年12月一部改正)

中学校の学習指導要領も平成15年12月に一部改正されたが、教材の内容及び取扱いには影響ないと判断される。

22. 高等学校学習指導要領 平成11(1999)年 3月(平成15年4月施行)

平成15(2003)年4月に施行された高等学校学習指導要領で球技は以下のように示されている。

E 球技

バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビー、バレーボール、テニス、卓球、バドミントン、ソフトボール

内容の取扱いは、次のように示されている。

(1) イ B からG(B:器械運動、C:陸上運動、D:水泳、F:武道、G:ダンス)までについては、入学年次及びその次の年次においては、二つから四つを選択して履修できるようにすること。その際、F又はGのいずれかを含むようにすること。

(2) 内容のAからGまでに示す事項については、各学年において次のとおり取り扱うものとする。

オ Eの(1)の運動については、これらのうちから二つを選択して履修できるようにすること。なお、地域や学校の実態に応じて、その他の運動についても履修させることができること。

23. 小学校学習指導要領 平成 20(2008)年 3 月 告示

平成 20 年の小学校の要領では、球技教材の大きな変化は見られず、第 3 学年からゴール型、ネット型、ベースボール型というカテゴリーになったくらいが目につくところである。内容の取扱いは、アはバスケットボール及びサッカーを、イはソフトバレーボールを、ウはソフトボールを主として取り扱うものとするが、これらに替えてそれぞれの型に応じたハンドボールなどのその他のボール運動を指導することもできるものとする。なお、学校の実態に応じてウは取り扱わないことができる。

表 21 小学校の球技の内容 2008

第 1 学年 及び第 2 学年	E ゲーム	ア ボールゲーム イ 鬼遊び
第 3 学年 及び第 4 学年	E ゲーム	ア ゴール型ゲーム イ ネット型ゲーム ウ ベースボール型ゲーム
第 5 学年 及び第 6 学年	ボール運動	ア ゴール型 イ ネット型 ウ ベースボール型

24. 中学校学習指導要領 平成 20(2008)年 3 月 告示

中学校も小学校と同様のカテゴリーになった。内容の取扱いについては、第 1 学年及び第 2 学年においては、アからウまでをすべての生徒に履修させること。第 3 学年に

おいては、アからウまでの中から二つを選択して履修できるようにすること。

また、アについては、バスケットボール、ハンドボール、サッカーの中から、イについては、バレーボール、卓球、テニス、バドミントンの中から、ウについては、ソフトボールを適宜取り上げることとし、地域や学校の実態に応じて、その他の運動についても履修させることができること。なお、ウの実施に当たり、十分な広さの運動場の確保が難しい場合は指導方法を工夫して行うこと。

表 22 中学校の球技の内容 2008

第 1 学年及び第 2 学年	E 球技	ア ゴール型 イ ネット型 ウ ベースボール型
第 3 学年	E 球技	ア ゴール型 イ ネット型 ウ ベースボール型

25. 高等学校学習指導要領 平成 21(2009)年 3 月 告示

平成 21 年の高等学校も小・中と同様のカテゴリーになり、三校種が統一され、すっきりとした感がある。

E 球技

ア ゴール型

イ ネット型

ウ ベースボール型

内容の取扱いについては、入学年次においては、アからウまでの中から二つを、その次の年次以降においては、アからウまでの中から一つを選択して履修できるようにすること。また、アについては、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビーの中から、イについては、バレーボール、卓球、テニス、バドミントンの中から、ウについては、ソフトボールを適宜取り上げることとし、地域や学校の実態に応じて、その他の運動についても履修させることができること。

26. 小学校学習指導要領 平成 29(2017)年 3 月 告示

平成 29 年の小学校の球技の内容は、表 21 と表 23 とを見比べてみるとわかるように、全く同じである。平成 20 年と同じである。また、内容の取扱いにも違いはみられない。

表 23 小学校の球技の内容 2017

第1学年及び第2学年	E ゲーム	ア ボールゲーム イ 鬼遊び
第3学年及び第4学年	E ゲーム	ア ゴール型ゲーム イ ネット型ゲーム ウ ベースボール型ゲーム
第5学年及び第6学年	ボール運動	ア ゴール型 イ ネット型 ウ ベースボール型

27. 中学校学習指導要領 平成 29(2017)年 3 月 告示

平成 29 年の中学校の球技教材の内容と配当は平成 20 年のものから変更はなく、内容の取扱いについても同様である。

表 24 中学校の球技の内容 2017

第1学年及び第2学年	E 球技	ア ゴール型 イ ネット型 ウ ベースボール型
第3学年	E 球技	ア ゴール型 イ ネット型 ウ ベースボール型

28. 高等学校学習指導要領 平成 30(2018)年 3 月 公示

平成 30 年の高等学校の球技教材の内容と配当は平成 21 年のものから変更はなく、内容の取扱いについても同様である。

まとめ

本論文は、主に文部科学省の学習指導要領データベースを利用して、戦後日本の球技教材の内容がどのように変わってきたのかを明らかにした。最後に若干の私見を加えて述べることにする。

- 1) 戦後すぐの学習指導要領では体育、保健体育は扱われておらず、「学校体育指導要綱」として別立てで示された。これは、まずは主要教科が優先されて体育、保健体育は後回しになったと推察される。
- 2) 「学校体育指導要綱」で、大学の体育までが入っていたのは、驚きであった。と同時に、なぜ大学が入っていたのか。このことについては不明である。
- 3) 「学校体育指導要綱」以後の「学習指導要領」の球技教材をみていくと、昭和 24 年の小学校の要領までは、現在ではどういう球技なのかがわからないものが相当数ある。中学校、高校の球技教材は、ほぼ現在知られている球技になっている。
- 4) 戦後の球技教材は、アメリカ主導のもとに決められ、今日スポーツ教材の中で、戦前とは比べものにならないほど大きな位置を占めるようになった。

文献

- 1) <https://www.niier.go.jp/guideline/> (学習指導要領データベース)
- 2) 岸野雄三・竹之下休蔵 『近代日本学校体育史』、日本図書センター、1983
- 3) 井上一男 『学校体育制度史 増補版』、大修館書店、1959